

目次

こども福祉科 保育士コース2年

A 厚生労働省指定科目

教養科目

憲法	町田 幸作	3
経済学	山梨 顕友	4
情報リテラシーと処理技術	竹部 祥子	5

専門的科目

こども家庭支援論	長谷 あゆみ	6
こどもの理解と相談支援	高橋 裕	7
こどもの保健	奥野 啓子	8
こどもの食と栄養	坂岡 寿恵	9
こどもの指導法「健康」	浦田 日出雄	10
こどもの指導法「環境」	高橋 和也	11
こどもの指導法「音楽表現Ⅱ」	折笠 美穂	12
乳幼児保育Ⅱ	田中 智子	
こどもの健康と安全	道上 里奈	13
障害児保育Ⅱ	伊藤 礼美	14
社会的養護Ⅱ	千葉 桂子	15
子育て支援	和田 晃尚	16
保育・教職実践演習	伊藤 礼美	17
特別支援教育	伊藤 礼美	18
こどもの指導法「音楽表現Ⅲ」	渡辺 隼人	19
環境論	折笠 美穂	20
こどもとリズム表現Ⅲ	田中 智子	
幼児造形	道上 里奈	
こどもと音楽表現Ⅳ	高橋 和也	21
保育実習Ⅱ	道上 里奈	22
保育実習Ⅲ	矢元 政行	23
保育実習対策Ⅱ・指導Ⅱ（保育所）	折笠 美穂	24
保育実習対策Ⅱ・指導Ⅲ（施設）	田中 智子	
こどもと体育	道上 里奈	
卒業研究	藤田 留美	25
保育制作Ⅱ	房田 里枝	
障害者支援論	藤田 留美	26
卒業研究Ⅱ	房田 里枝	
	藤田 留美	27
	房田 里枝	
	藤田 留美	28
	房田 里枝	
	高橋 和也	29
	房田 里枝	30
	道上 里奈	31
	齊藤 英紀	32
	房田 里枝	33

卒業研究Ⅲ	房田 里枝	34
こどもと音楽表現Ⅵ	折笠 美穂	35
	田中 智子		
	道上 里奈		
手話Ⅱ	町田 幸作	36
体育	浦田 日出雄	37
環境Ⅱ	伊藤 礼美	38

B 本校独自科目

点訳	吉田 重子	39
応対論Ⅱ	坪崎 美佐緒	40
国語総合演習Ⅱ	浦田 日出雄	41
就職ガイダンスⅡ	長屋 敦志	42

講 義 要 綱

科 目 名		憲法	授業区分	講義	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		町田 幸作	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	1. 社会生活における法的作用や役割について理解する。 2. 憲法・民法などの諸法律および社会福祉行政の基礎を理解する。 3. 基本的人権、権利擁護など社会福祉の援助に必要な知識を身に付ける。				
	到 達 目 標	1. 法の成立過程を民主的手続きについての知識を踏まえながら学ぶ。 2. 憲法の基本理念について、具体的事例を通して学ぶ。 3. 民法規定の概要を知り、法律を基にした具体的な判断の仕方を学ぶ。 4. 労働関係の法規程を知り、就労のルールや労働者の権利を学ぶ。 5. 福祉現場における人権擁護について学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション 法律とは				
	2	民主主義と法の成立				
	3	法の体系				
	4	憲法の基本理念				
	5	民法総則①				
	6	民法総則②				
	7	消費生活と法				
	8	不法行為責任				
	9	親族① 婚姻・離婚				
	10	親族② 親権・親子				
	11	親族③ 扶養・相続				
	12	労働現場におけるルール① 労働基準法				
	13	労働現場におけるルール② 雇用保険法 労災保険法				
	14	福祉現場における人権擁護				
	15	まとめ				
成績評価基準	試験点数に授業態度や授業への参加状況などの平常点を加味して評価する。					
使用テキスト	佐伯仁志 大村敦志『有斐閣ポケット六法 令和3年版』有斐閣					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	法律の知識は、社会の中でよりよく生活し幸せになるために必須です。法的根拠を元に物事を考察し判断する力を身に付けましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		経済学	授業区分	講義	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		山梨 顕友	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	経済学を学ぶことを通して日常生活で出会う経済現象への理解を深めましょう。				
	到 達 目 標	経済学が扱う事柄が私たちの暮らしとどのような関わりを持っているのか理解しましょう。殊に、それらを他の人に説明できるようになると良いですね。				
授 業 計 画 表	1	経済学とは				
	2	消費者と企業の行動—需要と供給				
	3	市場メカニズムの効率性				
	4	市場メカニズムの問題点・政府の役割				
	5	貨幣と利子				
	6	貿易と為替レート				
	7	GDPとは何か・GDPを決めるものとは				
	8	まとめ				
成績評価基準	試験・提出物70%、授業態度・出席状況：30% 期末に定期試験を行います。					
使用テキスト	中谷 武 中村 保 『1からの経済学』 碩学舎					
参 考 文 献	適宜紹介します。					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	適時課題を提出してもらいます。 身の回りの物事が経済とどうにかかわっているのかに関心を持ってみましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		情報リテラシーと処理技術	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		竹部 祥子	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	保育現場でもIT化が進み、知識やパソコン操作は必須である。 卒業学年になるので、教材も現場を意識したものを使用し、実践で活かすことのできる知識と能力を習得する事を目標とする。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・Word－お便り等が作れるようになる。 ・Excel－簡単な計算・使用頻度の高い関数を使えるようになる。 ・PowerPoint－基本操作を学び、動く絵本を作る。 				
授 業 計 画 表	1	Windowsについて・スキルチェック（自己紹介カードの作成）				
	2	Word①基本操作・ビジネス文書の基礎				
	3	Word②表を使った文書				
	4	Word③図・イラストを使った文書				
	5	Word④図・イラストを使った文書				
	6	Word⑤文書作成まとめ				
	7	PowerPoint①基本操作				
	8	PowerPoint②動く絵本（作成）				
	9	PowerPoint③動く絵本（作成）				
	10	PowerPoint④動く絵本（発表）				
	11	Excel①基本操作				
	12	Excel②作表・四則演算				
	13	Excel③作表・基本の関数				
	14	Excel④グラフ				
	15	Excel⑤まとめ				
成績評価基準		授業態度・提出物・試験・発表内容を総合的に見て評価する。				
使用テキスト		浅野ななみ『すぐに使える！おたより文例集&イラストカットBOOK』ナツメ社				
参 考 文 献		特になし				
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他		<ul style="list-style-type: none"> ・「どう作りたいか」「どう使いたいか」を考えながら、課題作成に取り組む。 ・配布資料はファイリングする。 				

講 義 要 綱

科 目 名		こども家庭支援論	授業区分	講義	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		長谷 あゆみ	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	こどもの安心安全な日々を保障し、その健やかな成長と発達を守るためには子育て家庭への支援は欠かせません。こどもの最善の利益は何なのかを常に考え、家庭支援の方法を具体的かつ社会的な観点からも学びます。				
	到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭への支援の意義・目的を理解する 2. 個々のこども理解・家庭理解を深める 3. 多様な支援の展開と保育現場での実際の援助を学ぶ 				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション／自己紹介／家庭支援の意義				
	2	子育て支援－こども理解と保護者理解				
	3	子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
	4	保育の専門性を活かした子育て支援と保護者支援				
	5	こどもの育ちの喜びの共有				
	6	こども理解と自己理解				
	7	保育士に求められる基本的姿勢				
	8	個々の家庭に応じた支援－保育現場が出来ること				
	9	地域や関係機関との連携・協力				
	10	生活課題を抱える家庭への支援／事例検討				
	11	要保護児童について①全体像と抱える困難				
	12	要保護児童について②家族的背景／施設養護				
	13	要保護児童について③保育士の役割				
	14	これから求められる家庭支援について				
	15	まとめ／科目終末試験				
成績評価基準	レポート、筆記試験（60％） 授業への取り組み姿勢、提出物（40％）					
使用テキスト	松原康雄・村田典子『新基本保育シリーズ⑤こども家庭支援論』中央法規					
参 考 文 献	配布資料					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	保育士の専門性につながる内容です。こどものケアと家庭支援の実際に活かせる様に、積極的に学ぶことを期待します。配布資料のファイリングをして下さい。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもの理解と相談支援	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		高橋 裕	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	こどもの発達・学びを支えるためのこどもの理解のしかたや、発達過程での つまづき・問題の把握、対応の仕方について学ぶ。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもを巡る環境やこどものもつ悩み・問題の現状が理解できる。 ・こどもの望ましい成長を支える相談支援の方法がわかる。 				
授 業 計 画 表	1	こどもの相談支援とは				
	2	相談支援の基本 (カウンセリングの基本)				
	3	こどもを理解する視点 (こどもの環境、生活・発達の理解)				
	4	こどもの自己理解を進める技法				
	5	こどもを理解する方法 (知能検査・発達検査・行動観察法)				
	6	教育・保育現場におけるカウンセリングの実際				
	7	幼児・こども理解とカウンセリングマインド				
	8	相談支援における情報の共有と保護者支援				
	9	相談支援の記録・省察・評価				
	10	幼稚園・保育所における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援				
	11	小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援				
	12	相談支援の実際① 発達障害、知的障害、自閉・情緒障害				
	13	相談支援の実際② 不登校、いじめ、虐待・非行				
	14	相談支援における家庭・学校・地域との連携				
	15	学習のまとめ				
成績評価基準	テスト60% レポート・授業内課題30% 授業姿勢10%					
使用テキスト	『こどもの理解と相談支援』豊岡短期大学					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	<ul style="list-style-type: none"> ・初回に全授業のレジユメを配付するので、ファイリングすること ・前時に次回授業の内容を示すので、該当する資料・要領等で事前学習をすること 					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもの保健	授業区分	講義	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		奥野 啓子	学 科 開講学年	こども福祉科2年 合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	①子どもの発育・心身の健康状態を理解する。 ②子どもに多く見られる代表的な疾患の予防・早期発見・対処方法の基礎知識を学ぶ。				
	到 達 目 標	①子どもの身体的な発育・発達と保健活動について理解できる。 ②子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 ③子どもの疾病と予防方法および多職種連携について理解できる。				
授 業 計 画 表	1	1. 子どもの心身の健康と保健の意義 ①生命の維持と安定に係る保健活動				
	2	②健康の概念と保健指導				
	3	③現代社会における現状と課題 ④地域における保健活動と虐待防止				
	4	2. 子どもの身体的発育・発達 ①身体発育及び運動機能の発達と保健				
	5	②生理機能の発達と保健				
	6	3. 子どもの心身の健康状態と把握 ①健康観察 ②不調時の早期発見				
	7	③発育・発達の把握と健康診断				
	8	④保護者との情報共有				
	9	4. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴 ②先天性の病気				
	10	②循環器、呼吸器、消化器の病気				
	11	③アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気				
	12	④脳の病気、その他の病気				
	13	⑤感染症				
	14	(2) 子どもの疾病の予防と適切な対応				
	15	まとめ				
成績評価基準	筆記試験80%、出席状況および授業態度10%、課題10%					
使用テキスト	宮津澄江『こどもの保健』豊岡短期大学					
参 考 文 献	「子どもの保健」(中央法規) 「子どもの保健」(学建書院)					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	応答型授業が多くなります。積極的な参加を希望します。資料などは整理して保管してください。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもの食と栄養	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		坂岡 寿恵	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	こどもの健全な発育・発達には、成長段階における適切な栄養摂取と食生活が重要であり、生涯にわたる食生活習慣の基盤をつくる大切な時期でもある。保育者として、こどもの食に直接かかわるための知識と技術を身につける。				
	到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康的な食生活の意義と栄養に関する基礎的知識を習得する。 2. こどもの発育・発達段階に適応した食事支援ができる。 3. こどもの食生活の現状と問題点を把握し、食育の重要性の理解と実践力を身につける。 				
授 業 計 画 表	1	小児期の栄養・食生活の意義、こどもの食生活の現状と課題				
	2	小児の身体発育と栄養状態の評価、食べる機能の発達				
	3	栄養・食生活の基礎知識①				
	4	栄養・食生活の基礎知識②				
	5	栄養・食生活の基礎知識③				
	6	妊娠・授乳期の栄養、乳児期の栄養				
	7	乳児期の栄養 (調乳実習)				
	8	離乳期の意義と離乳食				
	9	離乳食の調理 (調理実習)				
	10	幼児期の栄養と食生活				
	11	幼児期の食事 (調理実習)				
	12	学童期・思春期の栄養と食生活、児童福祉施設における食生活				
	13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養				
	14	小児期の食育 (演習)				
	15	食育と子育て支援、まとめ				
成績評価基準	筆記試験 70% レポート・小テスト 20% 出席状況・授業姿勢 10%					
使用テキスト	久保田絹江『こどもの食と栄養』豊岡短期大学					
参 考 文 献	授業内で紹介。配布資料有り。					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	授業を通して自分の食生活も見直しましょう。配布資料、プリント等はファイリングすること。小テスト有り。授業への積極的な参加を望みます。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもの指導法「健康」	授業区分	講義	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		浦田 日出雄	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	こどもたちを取り巻く「健康」のあり方や「保育所保育指針」「幼保」連携型認定こども園・保育要領」における領域「健康」のねらいや内容の理解を深めるとともに、発達と健康についての実践のエピソードを取り上げて解説していく。また、保育者としてどのように健康への取り組みや指導ができるように考察していく。				
	到 達 目 標	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に配慮の仕方やこどもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら、こどもの積極的な健康指導を習得する。				
授 業 計 画 表	1	領域「健康」のねらいと内容を理解する。				
	2	乳幼児の心身の発育・発達				
	3	乳幼児の運動遊び				
	4	基本的な生活習慣				
	5	子どもの遊びと健康				
	6	安全教育と安全管理				
	7	健康と自然環境				
	8	保育内容「健康」のまとめ。筆記試験。				
成績評価基準	授業態度、提出物、文字の丁寧さ、筆記試験(レポート)を総合的に見て評価する。					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	実習、就職を意識して授業に臨み、真面目に取り組んでほしい。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもの指導法「環境」	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		高橋 和也	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針における領域「環境」のねらいと内容を深く読み取り、乳幼児期における環境の重要性を理解する。 ・人、物、社会、自然環境の意味と役割を理解し、子どもの発達に即した環境構成のあり方を考える。 				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の子どもを取り巻く環境を考えながら、保育における環境の重要性やその意味を考えるとともに、幼児期の発達の特徴を踏まえた環境構成や援助のあり方について理解を深めることを目標とする。 				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション 保育内容「環境」の意義				
	2	「環境を通した保育」				
	3	子どもと人的環境				
	4	子どもと物的環境				
	5	子どもと自然環境				
	6	子どもと社会の事象				
	7	子どもの生きる力を育む環境構成				
	8	授業のまとめ				
成績評価基準	授業への取り組み20% 提出物・科目終末試験80%					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	保育所保育指針「平成29年告示」(フレーベル館) 保育所保育指針「平成29年告示」解説書(フレーベル館) / プリント配布					
担 当 者 実 務 経 験	幼稚園教諭として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	幼児期の保育・教育の基本は「環境を通して行う」と言われています。 非常に重要な授業であることを心にとめて授業に臨んでください。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもの指導法「音楽表現Ⅱ」	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		折笠美穂 田中智子 道上里奈	学 科 開講学年	こども福祉科2年 (保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	保育現場で様々な表現活動ができるように技術の向上を目指し、弾き歌いもできるようになる。またこどものうたのレパートリーを増やし、実習や就職に向けての歌の伴奏ができるように技術を学ぶ。合奏などを通して様々な楽器演奏を体験する。				
	到 達 目 標	こどものうたの弾き歌いや伴奏法を学び実習や就職に向けての力をつける。それぞれの進度に合わせて、コードや簡易伴奏を用いてうたの伴奏をする演奏をとおして技術を学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	2	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	3	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	4	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	5	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	6	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	7	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	8	まとめ それぞれの成果を発表				
成績評価基準	実技試験・授業態度・練習状況やグループ活動で意欲的に参加しているかを評価する。実技試験80%。授業態度10%・7練習状況など10%					
使用テキスト	小林美実『こどものうた200』チャイルド社 小林美実『続こどものうた200』チャイルド社					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	新しい曲や今までに練習してきた曲をどんどん発表していきます。保育士として現場でどのように用いていくかを想像しながらレパートリーを増やしいってください。					

講 義 要 綱

科 目 名		乳幼児保育Ⅱ	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		道上 里奈	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も成長する時期です。子どもが「人」として生きていくうえで基本となる心情・意欲・態度の基礎を獲得し、その力を活用して人格を形成していく大切な時期を保育する大人であることの重要性を理解し、保育者としての人間性と専門性を身につけていきます。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児保育における保育の実際と配慮事項について具体的に理解する ・演習を通し、実践に役立つ知識や「考える力」を養う 				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション／乳幼児保育の基本				
	2	0歳児クラスの実際(生活・環境・援助)				
	3	1歳児クラスの実際(生活・環境・援助)				
	4	2歳児クラスの実際(生活・環境・援助)				
	5	乳幼児保育における配慮				
	6	長期的な指導計画と短期的な指導計画				
	7	個別的な指導計画と集団の指導計画				
	8	授業のまとめ				
成績評価基準	授業の取り組み20%、提出物20%、試験60%					
使用テキスト	寺田清美・大方美香・塩谷香「乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新・基本保育シリーズ⑮」中央法規					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	1年次の乳幼児保育Ⅰ(講義)からの続きになります。プリントは同じファイルに綴じてください。必ず1年次の復習をしてから授業に臨み、保育士の資格を持つ自覚を持ち意欲的に参加してください。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもの健康と安全	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		伊藤 礼美	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	保育士コース		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	保育の原点は、子どもの命を守り、子どもの健やかな育ちを支えることにあります。子どもの保健に関する知識を学び、保育のなかで実践していくことが保育者には求められます。保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解していきましょう。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、衛生管理、事故防止及び安全対策、感染症対策について理解する。 ・子どもの発達や状況等に即した適応な対応、子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。 				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション・保健的観点を踏まえた保育環境および援助				
	2	保育における健康および安全管理①				
	3	保育における健康および安全管理②				
	4	子どもの体調不良などに対する適切な対応				
	5	感染症対策				
	6	保育における保健的対応				
	7	健康および安全の管理の実施体制				
	8	授業のまとめ				
成績評価基準	授業への取り組み30%、提出物20%、筆記試験50%					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	松田博雄・金森三枝『子どもの健康と安全』中央法規					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受講の心構え他	配布プリントは全てファイリングしてください。これから出会う子どもたちの命を守り、より良い・望ましい未来を作り上げることに繋がる学びになるように授業に参加してください。					

講 義 要 綱

科 目 名		障害児保育Ⅱ	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		千葉 桂子	学 科	こども福祉科2年		
			開 講 学 年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児保育の歴史を知る。 ・障がい児保育の実際について学ぶ。 				
	到 達 標 目	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児保育を支える理念や歴史の変遷を知り、理解を深める。 ・支援者として求められる専門性について理解する。 ・障がい児保育の実際について学び、個別の支援計画及び指導計画など具体的な支援の仕方について知り、理解する。 				
授 業 計 画 表	1	障がい児保育の変遷				
	2	障がい児保育の理解と支援				
	3	発達障がい児の理解と支援				
	4	障がい児の通所する療育機関と保育機関の連携と発達の支援				
	5	障がい児保育の実際①（保育内容の方法）				
	6	障がい児保育の実際②（指導計画の作成と記録および評価）				
	7	保育者の家族に対する理解と支援				
	8	まとめ（障がい児の良き支援者となるために）				
成績評価基準	テスト60%、小テスト、ミニレポート20%、出席及び授業姿勢20%					
使用テキスト	小川英彦『障害児保育キーワード100』福村出版					
参 考 文 献	配布資料、授業内で紹介					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受講の心構え他	実技やグループワークも行います、実習などの体験を生かし、積極的な参加を希望します。配布資料をファイリングするA4ファイルが必要です。小テスト有り。					

講 義 要 綱

科 目 名		社会的養護Ⅱ	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		和田 晃尚	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	この科目は、児童福祉施設に入所している子どもたちやその家族への支援ので求められる子どもの理解の視点や家族支援の在り方等の援助技術について、講義や演習を通して学びます。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護にかかわる保育士等の専門職に必要な知識や技術を習得する。 ・社会的養護にかかわる保育士等の専門職が果たすべき役割を理解する。 				
授 業 計 画 表	1	社会的養護における生活支援の実際①				
	2	社会的養護における生活支援の実際②				
	3	社会的養護における子どもの権利擁護				
	4	虐待を受けた子どもの理解とケア, 治療的養育の実際				
	5	社会的養護にかかわる専門職に必要な知識・技術①				
	6	社会的養護にかかわる専門職に必要な知識・技術②				
	7	社会的養護におけるソーシャルワーク				
	8	社会的養護にかかわる保育士等の倫理と責務				
成績評価基準	テスト(レポート)80%、出席状況や授業態度20%					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	伊藤嘉余子・小池由佳編著『はじめて学ぶ子どもの福祉6 社会的養護内容』ミネルヴァ書房					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	1年生時に受講した「社会的養護」の授業内容をよく復習した上で授業に臨んでください。積極的な授業参加を期待します。					

講 義 要 綱

科 目 名		子育て支援	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		伊藤 礼美	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	保育士コース		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	保育の専門性をいかした子育て家庭や保護者に対する相談援助の実際や支援方法を学び、保護者の「親育ち」も支援する知識・技術、価値観を理解する。				
	到 達 目 標	子育て家庭に対して保育者が行う相談の支援の内容とその実際を具体的に理解し、保育の現場で少しでも活用できることを目指す。				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション・子育て支援、保護者支援とは				
	2	子育て支援の基本				
	3	保育士の行う子育て支援の特性・展開				
	4	保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）				
	5	お便りや文書を活用した子育て支援				
	6	職員間の連携・協働				
	7	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働				
	8	授業のまとめ				
成績評価基準	授業の取り組み30%、提出物20%、筆記試験50%					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	「子育て支援」					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受講の 心構え他	子育て支援とは、親の為の支援ではなく子どもの為の支援ということを理解し子どもたちの最善の利益を一番わかっている専門家として学んで下さい。					

講 義 要 綱

科 目 名		保育・教職実践演習	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		伊藤 礼美	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	保育士には子どもの生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期に関わる大人としての自覚、知識と技術、人間性を理解し、自らの課題を明確にしていく。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者、職員と関わる際の役割や意味を理解し、保育者に必要とされる人間性を学ぶ。 ・協力しながら考え、実践していく中で、実際の現場で必要とされる知識・技術を身につける。 ・学びを振り返り、自分の目指す姿について具体的に考え課題を明確にする。 				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション・これまでの振り返り				
	2	保育者の業務の実際/保育者に求められる資質・人間性				
	3	保育者の役割～子どもを理解するとは				
	4	保育者の役割～子ども理解の実践				
	5	主体的な遊びで育つ子どもの姿について				
	6	保育者として求められる対人関係能力				
	7	保育のPDCAサイクル～やってみよう/振り返りの重要性				
	8	保育の記録/保育の実践①				
	9	保育の実践②				
	10	保育の実践③				
	11	保育の実践④				
	12	保育の実践⑤				
	13	保育の計画				
	14	授業のまとめ				
	15	授業のまとめ				
成績評価基準	授業の取り組み姿勢70%、提出物30%					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	プリントは必ずファイリングすること。2年間学んできたことを前提として授業を進めます。保育者になることを自覚して授業に参加すること。					

講 義 要 綱

科 目 名		特別支援教育	授業区分	講義	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		渡辺 隼人	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	現在「特別な」教育的ニーズを持つ子供は極めて高い割合で存在し、もはや「特別な知識ではなく、誰もが基本的な知識を持たなくてはなりません。そのため、特別支援教育に関する基礎知識を習得することが、この講義のねらいです。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント概念について理解し、説明できるようになる。 ・特別支援教育の基本概念、法律、対象となる子供の特性が説明できる。 ・個別のニーズを踏まえた支援方法を検討できる。 				
授 業 計 画 表	1	特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程（特別支援教育とは）				
	2	発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性				
	3	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等の困難を持つ子供の特性				
	4	子供のニーズに合わせた支援				
	5	教育チームによる組織的支援				
	6	特別支援教育コーディネータ				
	7	保護者・家庭支援と連携				
	8	特別な教育的ニーズを考える（現代的な視点から）				
成績評価基準	期末試験の成績によって評価する。試験の受験資格をレポート提出および合格とする。					
使用テキスト	『こどもの理解と相談支援』豊岡短期大学					
参 考 文 献	堀忠雄・尾崎久記・室橋春光『生理心理学と精神生理学 第III巻』 北大路書房					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	積極的な授業参加を期待します。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもの指導法「音楽表現Ⅲ」	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		折笠美穂 田中智子 道上里奈		学 科 開講学年	こども福祉科2年 (保育士コース)	
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	保育現場で様々な表現活動ができるように技術の向上を目指し、弾き歌いもできるようになる。またこどものうたのレパートリーを増やし、実習や就職に向けての歌の伴奏ができるように技術を学ぶ。グループで表現活動をする。				
	到 達 目 標	こどものうたの弾き歌いや伴奏法を学び実習や就職に向けての力をつける。それぞれの進度に合わせて、コードや簡易伴奏を用いてうたの伴奏をする演奏をとおして技術を学ぶ。歌や器楽演奏でグループとしての表現活動を学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	2	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	3	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	4	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	5	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	6	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	7	こどものうたの弾き歌いの演習（実習・就職にむけて） グループでの実践				
	8	まとめ それぞれの成果を発表する				
成績評価基準	実技試験・授業態度・練習状況やグループ活動で意欲的に参加しているかを評価する。実技試験80%。授業態度10%・7練習状況など10%					
使用テキスト	小林美実『こどものうた200』チャイルド社 小林美実『続こどものうた200』チャイルド社					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	新しい曲や今までに練習してきた曲をどんどん発表していきます。保育士として現場でどのように用いていくかを想像しながらレパートリーを増やしいってください。その為の練習を各自で行ってください。					

講 義 要 綱

科 目 名		環境論	授業区分	講義	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		高橋 和也	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活している。具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身に付ける必要がある。そのために様々な環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。				
	到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期の子どもの発達と環境の関係性を考えることができる。 2 環境を通して行う保育の意味を知ることができる。 3 保育環境のデザインを実践できることができる。 4 様々な環境との出会いを理解することができる。 				
授 業 計 画 表	1	環境の定義				
	2	領域「環境」の位置づけ				
	3	保育における環境（保育と環境）				
	4	幼児の身近な環境との関わり				
	5	行事				
	6	地域・施設との関わり				
	7	地域探検				
	8	授業のまとめ				
成績評価基準	筆記試験・課題提出80% 授業への取り組み20%					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	厚生労働省告示「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 資料プリント配布					
担 当 者 実 務 経 験	幼稚園教諭として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	教育、保育を行うにあたって「環境」は重要になってきます。 しっかりと理解し、実践していけるよう積極的に参加してください。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもとリズム表現Ⅲ	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		道上 里奈	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	幼稚園や保育園でのリズム遊びや歌、手遊び歌などは保育を行う上で欠かせないものである。それを子どもの前でも十分に行うことができるよう、楽器の使い方などを知り、実際に演奏する。また、どのように指導するか併せて考える。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に楽器を使い、扱い方を知る。また、子どもにどのように指導するか考え、実践し、振り返る。 ・様々な音楽表現を経験し、楽しみ、発表することで保育者としての自信を持つ。 				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション				
	2	手遊び紹介 全員1つずつ知っている手遊びを紹介する				
	3	リズム遊び				
	4	楽器の紹介をし、実際に触れてみる				
	5	楽器遊び				
	6	グループ決め/季節に合った曲選び				
	7	グループ別練習①				
	8	グループ別練習②				
	9	グループ別練習③				
	10	発表会				
	11	振り返り				
	12	リトミックについて/実践				
	13	リトミック実践				
	14	リトミック実践				
	15	まとめ				
成績評価基準	授業態度、グループでの活動や練習過程、感想や振り返りレポートなどで総合的に評価します。					
使用テキスト	小林美実『こどものうた200』チャイルド社 小林美実『続こどものうた200』チャイルド社					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	子どもが目の前にいると想像し、人前で表現することを何度も経験していきましょう。楽しみながら積極的に参加してください。					

講 義 要 綱

科 目 名		幼児造形	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		矢元 政行	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	・乳幼児の指導・援助者として、保育実習に向けて取り扱う造形活動の教材についての必要な知識や技術について学ぶ。さらに材料・用具の扱いなど実技を通して体験的に学習する。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育実習の造形表現について理解できる。 ・実習に向けた造形活動について、発達段階を踏まえた素材や技法、指導や援助について理解できる。 ・えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域、行事等における造形活動について実習で使える教材研究を行い習得できる。 ・教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。 				
授 業 計 画 表	1	保育・教育実習に向けた造形活動の指導案の作成について				
	2	実習に向けた造形活動「えがく領域」の教材研究と演習				
	3	実習に向けた造形活動「えがく領域」の教材研究と演習				
	4	実習に向けた造形活動「つくる領域」の教材研究と演習				
	5	実習に向けた造形活動「つくる領域」の教材研究と演習				
	6	実習に向けた造形活動「造形あそび」の教材研究と演習				
	7	実習に向けた造形活動「造形あそび」の教材研究と演習				
	8	まとめ				
成績評価基準		製作課題60%、プリント提出20% 出席率授業態度20%				
使用テキスト		「造形表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
参 考 文 献		特になし				
担 当 者 実 務 経 験						
受講の心構え他		保育実習に向けて、より実践的な造形教材について学びます。授業で使う道具等を忘れないこと。				

講 義 要 綱

科 目 名		こどもと音楽表現Ⅳ	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		折笠美穂 田中智子 道上里奈	学 科 開講学年	こども福祉科2年 合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	様々な表現活動ができるように技術の向上を目指す。曲のレパートリーを増やし伴奏としてピアノの技術を学ぶ。歌うこと、楽器演奏をとおして音楽の楽しさを感じ、保育の中に活かすどのように発展させるか考える力を身につけ技術を学ぶ。				
	到 達 目 標	弾き歌いや伴奏法を学び、実践に役立つ力をつける。各自の進度に合わせて簡易伴奏なども使う。音程やリズムを正確に演奏し又は歌い、様々な表現活動を指導する為の技術を学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習				
	2	ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習				
	3	ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習				
	4	ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習				
	5	ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習				
	6	ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習				
	7	ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習				
	8	まとめ それぞれの成果を発表				
成績評価基準	実技試験・授業態度・練習状況やグループ活動で意欲的に参加しているかを評価する。実技試験80%。授業態度10%・7練習状況など10%					
使用テキスト	小林美実『こどものうた200』チャイルド社 小林美実『続こどものうた200』チャイルド社					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	保育活動でその曲をどのように使用するか考えて選曲し、レパートリーを増やしきちんと仕上げるように練習してください。					

講 義 要 綱

科 目 名	保育実習Ⅱ	授業区分	実習	授業回数	15日間
担 当 者 氏 名	藤田留美 房田里枝	学 科 開 講 学 年	こども福祉科2年 (保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	1. 実習園について理解を深め、安全および疾病予防への知識を身につける。 2. 子どもの観察や関わりを通して、乳幼児の発達を理解する。 3. 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。 4. 職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理を具体的に学ぶ。			
	到 達 目 標	1. 保育所保育の実際に触れ、保育士としての必要な資質・能力・技術を修得する。 2. 家庭と地域の生活実態を把握し、子どもの家庭福祉ニーズの対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。			
授 業 計 画 表	○実習先 希望する保育所 ○実習期間 令和3年6月14日(月)～令和3年6月2日(金) 【期間内で15日間】				
成績評価基準	実習評価、実習出席状況・提出物を総合的に評価する。				
使用テキスト	特になし				
参 考 文 献	保育所保育指針(フレーベル館)				
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。				
受 講 の 心 構 え 他	卒業後の進路選択も見据えた積極的な実習態度を求めます。学ぶ姿勢を大切に実習に臨みましょう。				

講 義 要 綱

科 目 名		保育実習Ⅲ	授業区分	実習	授業回数	15日間
担 当 者 氏 名		藤田留美 房田里枝	学 科 開 講 学 年	こども福祉科2年 (保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	1. 児童福祉施設などにおける養護・支援を実践し、施設保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。 2. 家庭と地域との生活実態にふれて、児童家庭福祉、社会的養護に対する理解を元に、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う 3. 施設保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確化する。				
	到 達 目 標	1. 児童福祉施設、障害者支援施設等と機能を学ぶ 2. 施設における支援を体験し、利用者に対する受容・共感的態度を学ぶ 3. 個々の利用者のニーズ把握を通して個別支援計画について学ぶ 4. 施設保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ 5. 多様な専門職との連携や地域社会との連携を学ぶ 6. 施設保育士としての自己課題を明確化する。				
授 業 計 画 表	<p>○実習先 希望する児童福祉施設及び福祉施設</p> <p>○実習期間 令和3年6月14日(月)～令和3年6月2日(金) 【期間内で15日間】</p>					
成績評価基準	実習評価、実習出席状況・提出物を総合的に評価する。					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	保育所保育指針(フレーベル館)					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	卒業後の進路選択も見据えた積極的な実習態度を求めます。学ぶ姿勢を大切に実習に臨みましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		保育実習指導Ⅱ(保育所) 保育実習対策Ⅱ(保育所)	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	16回
担 当 者 氏 名		藤田留美 房田里枝		学 科 開 講 学 年	こども福祉科2年 (保育士コース)	
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	1. 実習を円滑に進めていくため知識や技術の修得をするとともに実習内容・実習課題を明確にする。 2. 実習を通して培った保育士としての資質・能力・技術を踏まえて、自己の課題を明確化させる。 ※保育所指導Ⅱ(8時間)と保育実習対策Ⅱ(8時間)を併せて行うこととする。				
	到 達 目 標	1. 保育所実習に必要な知識・技術の修得をするとともに実習内容・実習課題を明確にする。 2. 実習後の振り返りを通して、今後の学習につなげ、自己課題を明確にする。				
授 業 計 画 表	1	実習の意義・目的・概要の説明・個人票作成				
	2	実習の抱負・実習課題の作成①				
	3	実習課題の作成②				
	4	実習先事前訪問				
	5	年齢別遊びと展開～指導案作成①				
	6	年齢別遊びと展開～指導案作成②				
	7	年齢別遊びと展開～指導案作成③				
	8	年齢別遊びと展開～模擬保育④				
	9	実習日誌の取り扱い・記録の書き方				
	10	事前集中指導①				
	11	事前集中指導②				
	12	事後集中指導①				
	13	事後集中指導②				
	14・15	実習報告会				
	16	1年生とのディスカッション				
	成績評価基準	授業態度・課題への取り組みと提出状況・発表を総合的に評価				
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	保育所保育指針(フレーベル館)					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	授業での学びと実体験を繋げ、実習で得た様々な体験を振り返り、自己課題を明確にしましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		保育実習指導Ⅲ(施設) 保育実習対策Ⅱ(施設)	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	16回
担 当 者 氏 名		藤田留美 房田里枝		学 科 開 講 学 年	こども福祉科2年 (保育士コース)	
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	1. 保育実習Ⅲ(施設)に必要な知識・技術を習得するとともに、自ら学習内容・課題を明確にする。 2. 実習終了後、実習の総括と自己評価を行い、自己の学びを確認するとともに今後の課題を明確にする。 ※保育所指導Ⅲ(施設)8時間と保育実習対策Ⅱ(施設)8時間を併せて行うこととする。				
	到 達 目 標	<<事前指導>> 実習施設の制度的位置づけ、利用者と援助方法の概要、職員と業務内容について学ぶ 実習記録や実習計画を学ぶとともに、人権尊重・守秘義務などの留意事項を学ぶ <<事後指導>> 実習の成果を個別に報告し、自己課題を明確にする				
授 業 計 画 表	1	実習の意義・目的・概要の説明・個人票作成				
	2	実習の抱負・実習課題の作成①				
	3	実習課題の作成②				
	4	実習先事前訪問				
	5	実習課題の作成③				
	6	実習課題の作成④				
	7	個別指導計画の考え方①				
	8	個別指導計画の書き方②				
	9	実習日誌の取り扱い・記録の書き方				
	10	事前集中指導①				
	11	事前集中指導②				
	12	事後集中指導①				
	13	事後集中指導②				
	14・15	実習報告会				
	16	1年生とのディスカッション				
	成績評価基準	授業態度・課題への取り組みと提出状況・発表を総合的に評価				
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	保育所保育指針(フレーベル館)					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	授業での学びと実体験を繋げ、実習で得た様々な体験を振り返り、自己課題を明確にしましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもと体育	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		高橋 和也	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	子どもの発達過程と運動遊びの基礎を理解し、乳幼児期の運動遊びが発達にどのような影響を与えるのか理解する。また、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解、取得し、保育者としての実践力を身に付ける。				
	到 達 目 標	体づくり運動、走・跳の運動遊び、器械・器具を使つての運動遊び等、子どもが主体的に遊べる具体的な展開の仕方を実践できるようになる。				
授 業 計 画 表	1	子どもの発達段階と運動遊びについて				
	2	体づくり運動				
	3	体づくり運動				
	4	用具を使った運動遊び				
	5	用具を使った運動遊び				
	6	サーキット遊び				
	7	グループでの活動・実践				
	8	グループでの発表・授業の振り返りとまとめ				
成績評価基準	授業への取り組み50%、提出物、グループ発表等50%					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験	幼稚園教諭として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	運動のしやすい服装。積極的な姿勢で授業に臨み、グループでの活動も多いので、協力して行ってください。					

講 義 要 綱

科 目 名		卒業研究	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		房田 里枝	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。				
	到 達 目 標	授業、実習を通して学んだ技術を総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。				
授 業 計 画 表	1	下絵の内容を検討し、発注する材料、用具を取りまとめる。制作の日程を決める。製作可				
	2	大道具・小道具・背景・衣装に分かれて製作開始。衣装は401教室で				
	3	グループごとに製作				
	4	グループごとに製作				
	5	グループごとに製作				
	6	グループごとに製作・完成				
	7	製作物の補正・修正				
	8	台本に合わせた必要な音楽を話し合う				
	9	台本に合わせた必要な音楽を選曲し必要な楽器を選ぶ				
	10	曲に合わせて楽器合奏を考え、歌詞を考える				
	11	選曲された曲のパートを決め練習する				
	12	演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。				
	13	演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。				
	14	演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。				
	15	演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直し、楽曲を完成させる。				
成績評価基準	取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	絵本・様々な楽譜など					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持って、良い作品を作りましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		保育制作Ⅱ	授業区分	演習	授業時間	15時間
担当者氏名		道上 里奈	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	子どもと一緒に楽しむことのできるような会を作っていくために、必要なものを仲間と計画、協力しながら作り上げていく。保育は一人ではできないことを十分理解し、意見をまとめ、作っていくことの大切さを知る。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力し、季節行事での「おたのしみ会」を行う。 ・そのために必要なものを作成していく。 ・出来上がったものを使って発表し、最後に振り返る。 				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション／グループ決め／行事決め				
	2	話し合い／立案・行事計画書記入／準備など				
	3	卒業制作①				
	4	卒業制作②				
	5	卒業制作③練習①				
	6	卒業制作④練習②				
	7	卒業制作⑤練習③				
	8	お楽しみ会発表会 まとめ				
成績評価基準	授業態度、作業過程、発表や作品を含め総合的に評価します。					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	保育関連雑誌は参考になると思います。目を通してみてください。					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	保育の現場で必要となる実践的な授業です。仲間とともに、子どもの姿を想像しながらよりよい作品を作り上げてください。					

講 義 要 綱

科 目 名		障害者支援論	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		齊藤 英紀	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	・障害児者問題と政策、制度、社会資源の活用を理解し、障害の捉え方、支援目標へのアプローチの仕方等を理解する。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な背景から現行制度に至るまでの経過を理解する。 ・北海道の知的障害分野の教育の歴史について理解する。 ・書類作成、支援計画の作成等の実務を理解する。 ・障害の多様性と支援の仕方についての実務的な理解力を高める。 				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション。授業計画の確認。北海道の知的障害分野教育の歴史。				
	2	障害者支援の歴史及び制度の変遷。現行制度の概要。				
	3	現行の制度やサービス体系について。				
	4	障害者を支援するための視点について (①家族支援)				
	5	障害者を支援するための視点について (②本人支援)				
	6	障害者を支援するための視点について (③地域社会)				
	7	障害者を取り巻く芸術文化、スポーツ等について				
	8	障害者支援論まとめ				
成績評価基準	授業態度・出席（60％）、筆記試験（40％）					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	授業内で紹介いたします。					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	障害者を支援するための着目点、方法、テクニック等の実践的な内容を講義に盛り込みます。資料プリントはファイリングし、毎回持参してください。					

講 義 要 綱

科 目 名		卒業研究Ⅱ	授業区分	演習	授業時間	30時間
担当者氏名		房田里枝	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。				
	到 達 目 標	授業、実習を通して学んだ技術を総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。				
授 業 計 画 表	1	各パート練習1				
	2	各パート練習2				
	3	各パート練習3				
	4	各パート練習4				
	5	各パート練習5				
	6	合同練習1				
	7	合同練習2				
	8	合同練習3				
	9	合同練習4				
	10	合同練習5				
	11	合同練習6				
	12	総合練習1				
	13	総合練習2				
	14	総合練習3(会場設営含む)				
	15	総合練習4(会場設営含む)				
成績評価基準	取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	なし					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持って、良い作品を作りましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		卒業研究Ⅲ	授業区分	演習	授業時間	30時間
					授業回数	15回
担 当 者 氏 名		房田里枝	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	1. これまで学んだことや、各自で培った力を発揮して、効果的な舞台美術を作ることが出来る。 2. 2年間で学んだことをいかし、総合的な想像力、表現力を身につけるとともに、オペレッタを通じて保育士としての資質を養う。				
	到 達 目 標	1.オペレッタの内容に合わせ、背景、大道具、小道具、衣装の製作を行う。 ※一回目の授業までに、各グループで制作するものの下絵を色鉛筆で描き、サイズ、素材、配色を決めておく。 2.台本にあわせ、オペレッタの表現にふさわしい音楽を創作して歌詞を考え、場面にあった楽器、効果音、BGMを考え演奏する。				
授 業 計 画 表	1	各パート練習 1				
	2	各パート練習 2				
	3	各パート練習 3				
	4	各パート練習 4				
	5	各パート練習 5				
	6	合同練習 1				
	7	合同練習 2				
	8	合同練習 3				
	9	合同練習 4				
	10	合同練習 5				
	11	合同練習 6				
	12	総合練習 1				
	13	総合練習 2				
	14	総合練習 3 (会場設営含む)				
	15	総合練習 4 (会場設営含む)				
成績評価基準	取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	なし					
担 当 者 実 務 経 験	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。					
受 講 の 心 構 え 他	子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持って、良い作品を作りましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		こどもと音楽表現VI	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		折笠美穂 田中智子 道上里奈	学 科 開講学年	こども福祉科2年 (保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	様々な表現活動ができるように技術の向上を目指す。曲のレパートリーを増やし就職に向けて歌の伴奏としてのピアノの技術を学ぶ。複数人で歌ったり、楽器演奏をとおして音楽の楽しさを感じ、保育の中に活かすどのように発展させるか考える。				
	到 達 目 標	こどものうたの弾き歌いや伴奏法を学び就職に向けての力をつける。それぞれの進度に合わせて簡易伴奏を用いてうたの伴奏などの技術を学ぶ。音程やリズムを正確に演奏することを目指す。歌や器楽演奏でグループとしての表現活動の演習。				
授 業 計 画 表	1	こどものうたの弾き歌いの演習（就職にむけて） グループでの表現活動				
	2	こどものうたの弾き歌いの演習（就職にむけて） グループでの表現活動				
	3	こどものうたの弾き歌いの演習（就職にむけて） グループでの表現活動				
	4	こどものうたの弾き歌いの演習（就職にむけて） グループでの表現活動				
	5	こどものうたの弾き歌いの演習（就職にむけて） グループでの表現活動				
	6	こどものうたの弾き歌いの演習（就職にむけて） グループでの表現活動				
	7	こどものうたの弾き歌いの演習（就職にむけて） グループでの表現活動				
	8	まとめ それぞれの成果を発表する				
成績評価基準	実技試験・授業態度・練習状況やグループ活動で意欲的に参加しているかを評価する。実技試験80%。授業態度10%・7練習状況など10%					
使用テキスト	小林美実『こどものうた200』チャイルド社 小林美実『続こどものうた200』チャイルド社					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	新しい曲や今までに練習してきた曲をどんどん発表していきます。現場でどのように用いていくかを想像しながら各自で練習行いレパートリーを増やしていく。					

講 義 要 綱

科 目 名		手話Ⅱ	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		札幌聴覚障害者協会	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学びます。聴覚障害についての基礎知識と自己紹介や日常生活など身近な話題に関する手話表現を学びながら、更にコミュニケーション意欲を高めます。				
	到 達 目 標	1 聴覚障害者のコミュニケーション手段の1つである手話という言語を基礎から学び、日常的な会話ができる。 2 全国手話検定4・5級合格を目指す。				
授 業 計 画 表	1	ガイダンス 復習「自己紹介」				
	2	ステップアップ：話してみましようⅠ 「趣味、仕事、住所」				
	3	ステップアップ：話してみましようⅡ 「時に関する表現」				
	4	ステップアップ：話してみましようⅢ 「疑問詞を使って会話①」				
	5	ステップアップ：話してみましようⅣ 「疑問詞を使って会話②」				
	6	ステップアップ：話してみましようⅤ 「まとめ」会話をしてみましよう。				
	7	総まとめ				
	8	手話検定に向けての学習 実技試験（スピーチ・手話表現）				
成績評価基準	実技試験70% 授業態度30%を総合評価する					
使用テキスト	公益社団法人札幌聴覚障害者協会『さっぽろの手話』					
参 考 文 献	配布資料「DVDで学ぶ手話の本」 全国手話検定試験5級対応、4級対応 (社会福祉法人全国手話研修センター) 「わたしたちの手話学習辞典Ⅰ」 (一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局)					
担 当 者 実 務 経 験						
受講の心構え他	手話を習得するために、講師の手話表現をしっかり見て、積極的に手を動かすこと。各自でも手話を学べるように復習をすること。					

講 義 要 綱

科 目 名		体育	授業区分	実技	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		浦田 日出雄	学 科 開講学年	こども福祉科2年 (保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	1. 身体活動を通して、心身の健康保持の大切さを知る。 2. 体力の向上とともに、公正・協力・責任などの態度を養う。 3. 生涯を通して、生活を豊かにするために、スポーツに親しむ態度や能力を養う。				
	到 達 目 標	1. 運動に臨む態度や約束事を理解し実践する。 2. 各種の運動やスポーツに親しむことができる。 3. 球技大会に向けて、協力し練習することができる。				
授 業 計 画 表	1	授業を進める上での約束事・取り組む姿勢の確認。ミニバレーボールに親しむ。				
	2	バレーボールに親しむ。(ルールを理解、サーブ、レシーブ、トス、スパイク)				
	3	バレーボールに親しむ。(ゲームなど)				
	4	長縄跳びをする。バドミントンに親しむ。(ルールを理解、基本練習など)				
	5	バドミントンに親しむ。(ゲームなど)				
	6	キックベースボールなどに親しむ				
	7	卓球に親しむ。(ルールを理解、基本練習、ゲームなど)				
	8	卓球に親しむ。(ゲームなど)				
成績評価基準	授業態度、運動への取り組み、運動技能にて評価する。					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	授業準備、用具の準備・後片付け、運動への積極的な取り組みを期待します。					

講 義 要 綱

科 目 名		環 境 II	授業区分	講義	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		伊藤 礼美	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	身近な自然環境についての知識を身に付け、子どもたちの自然への興味や関心を引き出す環境づくりを行う力を身に付ける。				
	到 達 目 標	1. 自然の仕組み（生態系）について理解する。 2. 自然の大切さを知り、環境問題について考える。 3. 子どもが自然体験をするための空間づくりについての考え方を学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	自然のしくみー自然生態系ー				
	2	私たちの生活や社会と自然のつながり				
	3	環境問題の原因や現況とその対策				
	4	環境の時代にふさわしい生活のあり方				
	5	子どもが自然と触れ合うことの大切さ				
	6	日常的な自然体験のための空間づくりに関する基礎的な考え方				
	7	身近な生き物に対する認識、自然の中の危険に対する認識				
	8	「園庭ビオトープ」について				
成績評価基準		①授業参加・実践や制作の状況を平常点として評価 ②授業後試験を実施・評価				
使用テキスト		特になし				
参 考 文 献		随時資料プリントを配布				
担 当 者 実 務 経 験		保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する教員が講義を行う。				
受 講 の 心 構 え 他		自然についての知識を貪欲に身に付けようとする積極性を求めます。				

講 義 要 綱

科 目 名		点 訳	授業区分	演 習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		吉 田 重 子	学 科 開 講 学 年	こども福祉科2年 合 同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	点字の書き方の基本を習得するとともに、視覚障害者を取り巻く社会環境、生活上の不便さ等の一端を学ぶことを通して、よりよい支援を考えるきっかけとする。				
	到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡事項や私信など、日常生活上の情報を伝えられる程度の点字を書くことができる。 ・視覚障害の種類、日常生活用具、余暇の利用の可能性など、視覚障害者を取り巻く社会環境の一端を知ることができる。 				
授 業 計 画 表	1	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳：点字の仕組み、点字器の使い方、50音の習得（清音・濁音） ・トピックス：点字の歴史 				
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳：拗音・拗濁音・数字の習得 ・トピックス：視覚障害の定義、疾患や見え方等 				
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳：点字表記法の特徴（助詞の表記等）の習得 ・トピックス：視覚障害者用日常生活用具・学習用具の紹介 				
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳：文の書き方。分かち書きの基本の習得 ・トピックス：街中で見かける点字について 				
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳：文の書き方、分かち書きの基本の習得 ・トピックス：視覚障害者と余暇の利用（スポーツ） 				
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳：文章の書き方、分かち書きの習得 指先で点字を読む体験 ・トピックス：視覚障害者と余暇（映画鑑賞、読書等） 				
	7	<ul style="list-style-type: none"> 点訳：文章の書き方、書式の基本の習得 アルファベットの習得 ・トピックス：視覚障害児と玩具（健常児とともに遊べる「共遊玩具」の紹介） 				
	8	<ul style="list-style-type: none"> 点訳：文章の書き方、書式の基本の習得 アルファベットの習得 ・トピックス：視覚障害児・健常児、子供同士の関わりを促す支援の在り方 				
成績評価基準	レポート課題6割、授業への取り組み（発言や毎時行う演習提出物等）4割					
使用テキスト	全国資格障害者情報提供施設協会『初めての点訳 第3版』					
参 考 文 献	吉田重子『点字からはじまるメッセージ』北海道新聞出版局					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	毎時配布するプリントをしっかりと読んで、点訳演習に取り組むこと。					

講 義 要 綱

科 目 名		応対論Ⅱ	授業区分	演習	授業時間	15時間
					授業回数	8回
担 当 者 氏 名		坪崎 美佐緒	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	社会生活を送るうえで必要なマナーの精神を理解し深める。思いやりの心を観ち、敬意を持った対応をすることで周囲から愛され必要とされる人となる。その結果、働く喜びを、喜ばれる幸せな人生を生きる。				
	到 達 目 標	保育の現場で求められるマナーの心とは何か、そのために必要なマナーを理解し身につける。ロールプレイを通して知るから、分かるへ、最終的にはその本質を理解することで定着を図る。				
授 業 計 画 表	1	社会人として必要なマナー① 職場での基本ルール 会話のマナー（聞く・話す）				
	2	就職面接のマナー 好感度の高い第一印象とは（表情・身だしなみ・敬語）				
	3	就職面接のマナー 好感度の高い面接の実践				
	4	社会人として必要なマナー② 報連相の重要性とタイミング・伝え方				
	5	社会人として必要なマナー③ ビジネス文章（メール・文書）				
	6	社会人として必要なマナー④ 慶事・弔辞のマナー				
	7	社会人として必要なマナー⑤ 通過儀礼・まとめ				
	8	テスト				
成績評価基準	筆記試験 30% 提出物 30% 平常点（授業への取り組む姿勢）40% 特に授業中の周囲への配慮や参加する姿勢を重視します。					
使用テキスト	谷田貝公昭『これだけは身につけたい新・保育者の常識67』一藝社 NPO法人日本マナー・プロトコール協会『マナー&プロトコールの基礎知識』					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	応対論で得たものは、他の教科、日常生活で実践することで身につきます。 積極的に周囲との協力し、自分自身が成長することを楽しみましょう。					

講 義 要 綱

科 目 名		国語総合演習Ⅱ	授業区分	講義	授業時間	15時間
担当者氏名		浦田 日出雄	学 科	こども福祉科1年		
			開講学年	(保育士コース)		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	1. 自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。 2. 個人票や礼状など、いろいろな様式の文章に触れる。 3. 目的に合った文章について理解する。 4. 国語辞典を活用する。				
	到 達 目 標	1. 字形を整え、丁寧に文字を書くことができる。 2. 語彙を増やし、使用することができる。 3. 個人票、礼状などを書くことができる。				
授 業 計 画 表	1	個人票を作成する。				
	2	封筒の宛名、差出人の住所・名前をバランス良く書く。礼状の書き方。				
	3	礼状の書き方を知る。				
	4	履歴書について理解する。同音異義語を練習する。				
	5	履歴書を書く。同訓異義語を練習する。				
	6	慣用句、専門用語の正しい理解と使い方を知る。				
	7	四字熟語が読めて、意味を知る。ことわざについて知る。				
	8	ことわざについて知る。まとめの筆記試験。				
成績評価基準	授業態度、提出物、文字の丁寧さ、筆記試験を総合的に見て評価する。					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受講の心構え他	伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。					

講 義 要 綱

科 目 名		就職ガイダンスⅡ	授業区分	演習	授業時間	10時間
					授業回数	5回
担 当 者 氏 名		長屋 敦志	学 科	こども福祉科2年		
			開講学年	合同		
授 業 概 要	科 目 の ね ら い	本格的な就職活動が始まります。2年次の実習など学校スケジュールがある中で、就職ガイダンスにより、いつ、何をすべきなのか具体的な行動を理解し、各自が主体的に考え、行動できるようになることを目指します。				
	到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進路について、主体的に考え、取り組めるようになる。 2. 就職活動に際して、必要となる知識や技術を認識し、獲得する。 3. 就職試験の傾向と対策を学び、自らの就職活動に反映させる。 				
授 業 計 画 表	1	前年度求人・内定の流れ、就職活動のきまりと受験等各種手続きについて				
	2	求人票を見るポイント				
	3	長期休みとそれ以降の具体的な就職活動について				
	4	分野別ガイダンス 就職試験に向けた対策				
	5	内定者・未定者指導				
	6					
	7					
	8					
成績評価基準	受講をもって履修とする					
使用テキスト	特になし					
参 考 文 献	特になし					
担 当 者 実 務 経 験						
受 講 の 心 構 え 他	希望進路は、自分で「実現する」ものです。他人に「実現してもらおう」ものではありません。希望する進路を一緒に掴み取りましょう。					